



# さくら通信



## 秋田県議会議員桜田ゆうこ活動報告

2024年4月発行 No.4

[発行] 桜田ゆうこ事務所 秋田県秋田市御野場1-1-9 / TEL 090-7062-4666 / FAX 018-829-4321

### 市民の声が動かした “小さな”一歩 (2月議会報告)

新年度予算などを審査する2月議会が、3月19日で終了しました。今議会では、住民からの要望に対し、初めての一般質問で取り上げた、「県営住宅」の入居要件の緩和が実現しました。

会派の持ち時間の関係で、私自身は、本会議・予算特別委員会での質問の機会を持つことができませんでしたが、同じ会派の小原正晃議員が一般質問の項目に入れてくださり、回答をいただくことになりました。

小さな一歩ですが、県民の声をひとつひとつ実現していくことの大切さを忘れることなく、何事にも取り組んでまいります。

桜田 ゆうこ



### 2月議会 立憲民主党会派 小原正晃(おばらまさてる)議員 県営住宅の利用拡大について前進回答を引き出す



県内の県営住宅は、設備が古いなどの理由から入居率が低く、除雪作業や自治体活動、共益費の負担増など課題を抱えています。6月の一般質問で、私が60歳未満の単身者も入居できるように求めたのに対し、「活用方策を多面的に検討していく」との回答があり、担当者レベルでやりとりしてきました。

**小原議員** 県営住宅の入居条件について、他県では、奨学金返金者を優先的に入居させたり、連帯保証人制度を廃止したりしているところもある。県内でも、横手市の市営住宅で単身世帯も可としたところ、1割以上入居者が増えたという。このようなとりくみの本県でも導入し、利用者を増やすことはできないのか？

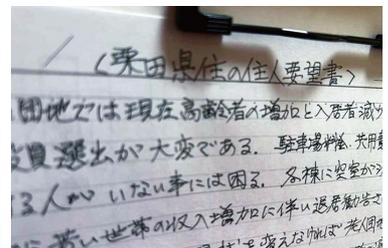
**知事** 県営住宅は、これまで主に世帯向けに整備してきたが、不動産関係や大学関係者との意見交換など検討を進め、若年を含む単身者の入居が見込めることから、4月より入居要件を緩和していく。

#### 一歩前進！

2024年4月から、一部を除く県営住宅に単身でも入居が可能になりました。

**小原議員** 社宅や、グループホームとしての活用など様々な利用促進策が考えられるが、知事の見解は？

**知事** 社宅やグループホームは、管理する上で大きな単位が望ましく、新たな入居希望者への提供ができなくなる懸念されるほか、目的外使用にあたることから慎重に検討していく。



## 2月議会 2024年度予算について問いただす(教育公安委員会)

2月議会には、2024年度予算案が提案され、私は、教育公安委員会において教育委員会と警察本部の予算を審査しました。特に、教育関係予算については、文部科学省の予算案と比較検討し、文部科学省予算にはあるのに、県の予算に無い項目や不足している点などについて追及しました。

### 1 高校入試出願システム導入及び運用事業について(新規)

**事業の概要など** これまで高校入試の願書は、中学校で必要書類をまとめ、各高校へ持参するか郵送していました。また、検定料は、県収入証紙を購入し、台紙に貼って願書と一緒に提出するしくみでした。新システムの導入によって願書提出手続きが簡便になり、集金などの業務が軽減されます。

#### ①高校入試出願システムの概要

- 生徒・保護者はPCやスマホ等で願書を作成
- 中学校はシステム上で調査書作成、出願状況確認
- 合否情報も生徒がシステム上で確認可能
- 検定料のキャッシュレス決済を導入

#### ②導入スケジュール

- 2026年度入学者選抜から新システムで実施

**櫻田** キャッシュレス決済では、決済手数料が発生するものと思われるが、費用負担等についてはどのように考えているのか。

**総務課長** なるべく出願者に負担がかからないような形で進めていきたいと考えている。

**櫻田** 導入1年目は混乱し、システムで出願できないなどのトラブルも予測される。万一来に備え、システムを使わずとも出願できる方法もとっていただきたい。

**総務課長** 出願漏れ等はあるとはならないことなので、様々な方法でフォローできるように検討していく。

### 2 学校サポーター配置事業の拡充について(拡充)

**事業の概要など** 学校サポーター配置事業は、教員の長時間労働解消策として、国3分の1・県3分の2の予算で実施されています。作品等の掲示や印刷業務などの教員の業務支援のために配置されており、学校現場にとっても大変ありがたい存在です。新年度予算ではその拡充が示されましたが、文部科学省の計画には届いていません。

2023年度

週12時間  
66人  
全小中学校の  
約1/4

2024年度

週16時間  
89人  
全小中学校の  
約1/3

文部科学省  
2024年度  
予算では  
全校配置

**櫻田** 配置時間の拡充で学校現場も非常に助かると思う。しかし、文部科学省が教員業務支援員を全小中学校へ配置するとしている一方、秋田県は小中学校の3分の1程度である。どのように考えているのか。

**義務教育課長** 教員業務支援員は、チームとして学校の業務分担のあり方を見直すものとして位置づけられていると認識している。全校配置をめざして拡充していきたいと考えているが、予算の制約もあり、今回はこれにとどまっている。

**櫻田** 教員のなり手不足は深刻である。全校配置している県がある一方で、秋田県は3分の1程度というのは、マイナス要素となってしまう。学校現場からも、全校配置や長時間配置を要望する声があるので、全校配置できるよう財政局への交渉をお願いしたい。

**義務教育課長** 文科省の教員業務支援員配置の手引きには、幅広い業務支援の好事例が掲載されていた。業務全体のデジタル化・効率化することも含めて、総合的に対応していきたい。

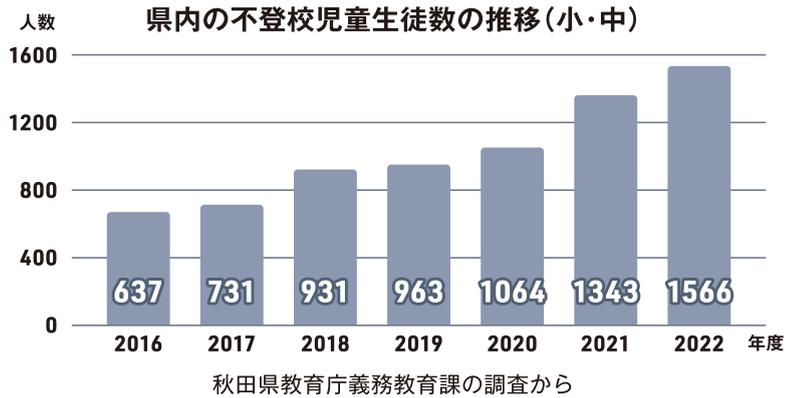


### 3 児童生徒の学びを支える支援スタッフ配置事業について(新規)

**事業の概要など** 2022年度の不登校児童生徒数(小・中)は1,566人となっています。「別室登校」の子どもたちもおり、現状の教職員だけで十分な支援を行うのは困難な状況です。そうした子どもたちの学びを支えるスタッフとして新しく18人の配置が提案されました。

**櫻田** 支援スタッフの配置は、学校現場からも大変ありがたいという声が届いている。非常に心強い存在であるため、拡大する方向で進めていきたい。

**義務教育課長** 市町村からは18人以上の要望がある。今後、拡大する方向で検討する可能性もある。



その他の質疑項目

- 教職員の多忙化防止計画の総括と今後の計画について
- 教職員の人材確保策について
- 教職員のストレスチェックについて
- 教員採用試験日程の前倒しの効果について 他

## 活動報告1 秋田の「まなび」を考えるネットワークを呼びかけ

### ネットワーク立ち上げの思い

先にご紹介した通り、秋田県内でも不登校の子どもたちが増えています。学校で働く中で、子どもの人権や学びの保障などについて学習し、多くの親御さんや有識者の方々のお話を伺ううち、学校教育のあり方は今のままでいいのかと考えるようになりました。



### 初顔合わせを開催

同じような思いを持つ、参議院議員の寺田静さんと相談し、ラインでつながる「秋田の『まなび』を考えるネットワーク」を立ち上げ、3月24日に初顔合わせを行いました。最初は20人足らずでスタートしたメンバーも、あらゆる方面からの参加があり、現在は60人に。顔合わせ当日は、Webを含め約30人が参加し、自己紹介をしながら様々な思いを語りました。



### どんなことが語られたのか

- すべての学校が一人ひとりのありのままを受け入れるようになること。普通の学校が変わらなければ子どもも保護者も救われぬ。多様な学び、ホームスクーリングを含めて一定の公的な支援が必要。
- 不登校に対してフリースクールやいろいろな対策を行っているが、不登校は増えている。システム自身に問題があるのでは。
- 学校現場では、教育を変えようと思ってもそんな余裕がない。教職員も子どもも、もっと余裕をもって一緒に楽しくできる学校にしたい。
- 自分もそうだったが、いろんな若い人が死にたいと思っている。自分たちの世代が感じている実態感のようなものを伝えていきたい。
- 群馬県で初めて、フリースクールに公的支援がスタートしている。

## 活動報告2

# 秋田県女性議員ネットワークがスタート!



1月25日、秋田県女性議員ネットワークの第1回ミーティングが開催され、党派を超えて、県内各地から女性議員が集まりました。この様子は、テレビや新聞など多くのメディアにも取り上げられ、注目を集めています。

## こんな取り組みをすすめます

秋田県内の全議員に占める女性の割合は、2023年6月現在で10.84%と全国平均を下回っています。こうした状況を踏まえ、ネットワークでは、①情報の共有、②勉強会等の開催、③地域へのアウトリーチ活動(啓発活動や講演会等)、④女性の政治参加の推進、⑤女性議員ピアサポート、を中心に活動を進めていく予定です。5月22日には結成総会を予定しており、いよいよ本格的な活動がスタートします!

## 活動報告3 市民の声を県政に届ける会 With 桜田ゆうこ

昨年11月から12月にかけて、秋田市内6か所を会場に、「市民の声を県政に届ける会 With桜田ゆうこ」を開催しました。

届ける会では、これまでの県議会での質問や当局の回答などをかいつまんで報告したほか、話題となっていた「あきたこまちR」導入への会派の見解と、導入背景にあるカドミウム・無機ヒ素の課題について、私なりの考

えをお話しさせていただきました。

全体で、延べ130人を超える皆さんが参加してくださったほか、御所野会場には地元国会議員の寺田学さんが、また、各会場には立憲民主党所属の市議会議員も参加して、一緒に声を聞かせていただきました。

会場でも出された声をいくつか紹介します。



○他県からの移住など人口減少対策について、県の本気さが見えてこない。

○カメムシ防除で使われるネオニコチノイドは有害物質であり対策を強めてほしい。

○ライドシェアは様々な課題があるので反対してほしい。

○内水氾濫に対する対策を強化してほしい。

○新県立体育館の駐車場について、年寄りや遠くの駐車場から歩くとすれば観に行かないので、しっかり整備してほしい。

○保育料が高い。もっと支援してほしい。

## 市民の声を県政に届ける会

— With 桜田ゆうこ



ご質問・ご要望、「どこに話したらいいのかわからない」ことなど遠慮せずご連絡ください。

桜田ゆうこへのご連絡は携帯へ

090-7062-4666へ

Check!



公式LINE



ホームページ

